



# 瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

復活節第2主日 B年(2024年4月7日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 4章 32—35節

第二朗読：ヨハネの手紙一 5章 1—6節

福音朗読：ヨハネによる福音書 20章 19—31節

## 聞いて信じる者に

復活節第2主日は、トマスのお話が読まれます。福音朗読にある「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」(27節)の言葉を思い巡らせていきましょう。

トマスは、復活したイエスさまが弟子たちに現れた時には、その場に居合わせなかった人です。ですから弟子たちが、「わたしたちは主を見た」(25節)と、復活のイエスさまとの出会いの体験を語っても耳を傾けませんでした。それどころか、イエスさまの十字架の傷跡を見なければ信じないとまで言い切ります。

トマスの人となり福音書から浮き彫りにしてみると、竹を割ったような真っ直ぐな性格の人物だったように思えます。「わたしたちも行って、主とともに死のう」(11章 16節)と、弟子たちをエルサレムへいざなうのはトマスでした。また、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちには分かりません」(14章 5節)と、イエスさまに単刀直入に問いかけたのもトマスでした。

ですから、今日の福音で、ほかの弟子たちが「わたしたちは主を見た」(20章 25節)と語っても、にわかには信じられなかったのは当然なのかもしれません。「釘の跡を見、自分の指をその釘の跡に入れてみなければ、また自分の手をその脇腹に入れてみなければ、決して信じない」(25節)は、トマスの偽ざる心境だったと思います。



「聖トマスの不信」カラヴァッジョ

そんなトマスに、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」（27 節）とイエスさまは優しく諭します。

復活の日の朝、ペトロともう一人の弟子は空の墓を「見て、信じ」（20 章 8 節）しました。しかしトマスは、ほかの弟子たちの証言を聞いて信じなければならないのです。ここに、信じることの次のステップがあるのではないのでしょうか。見て信じるから、聞いて信じるへの移行です。もっと正確に言えば、言葉を信じることへのチャレンジです。

『ヨハネによる福音書』は、「初めにみ言葉があった。み言葉は神とともにあった。み言葉は神であった」（1 章 1 節）で始まります。そして、福音書の終わりにあたり、イエスさまの語ったみ言葉、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」（20 章 27 節）で、イエスさまが人であり、神であることを教えているのです。「わたしの主、わたしの神よ」（28 節）というトマスの答えは、イエスさまの本質を教えるものなのです。

「見て、信じる」から「み言葉を聞いて信じる」へ移っていく。それは、わたしたちの信仰にも当てはまるでしょう。教会が語りかける「言葉」を聞くことを通じて、わたしたちは信じる者へと変えられていくのです。